

足 監 査 第 51 号

平成 25 年 10 月 23 日

足利市名草財産区管理者

足利市長 和 泉 聡 様

足利市監査委員 岩 崎 勝

足利市監査委員 岡 本 篤 典

足利市監査委員 西 田 智 男

平成 24 年度足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算  
審査意見について

地方自治法第 233 条第 2 項の規定により審査に付された平成 24 年度足利市名草  
財産区特別会計歳入歳出決算を審査したので、その結果について、次のとおり意見  
を提出します。

## 平成 24 年度 足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算審査意見

### 第1 審査の対象

平成 24 年度 足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算

### 第2 審査の期間

平成 25 年 9 月 13 日から平成 25 年 10 月 23 日

### 第3 審査の方法

審査に当たっては、管理者から審査に付された平成 24 年度足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算書及び附属書類と会計管理者及び担当部課が所管する諸帳簿等を照合し、計数の確認を行ったほか、事務事業及び予算の執行状況等について関係職員からの説明を聴取して行いました。

### 第4 審査の結果

審査に付された歳入歳出決算書及び附属書類は、いずれも関係法令にのっとり作成され、また、計数も関係諸帳簿、証ひょう書類と符合し、予算の執行もおおむね良好でありましたが、基金の管理など財政運営上、十分配慮する必要があります。

なお、歳入歳出差引残高は、出納閉鎖日現在における指定金融機関等の預金現在高証明書と一致し、正確であることを確認しました。

審査の概要は、次のとおりです。

(注) ・ 本文及び表中の金額は、原則として百の位を四捨五入し、千円単位としました。このため、合計額と内訳の計が一致しない場合や決算書と一致しない場合があります。また、前年度対比は、原則として千円単位の数値で比較しました。

- ・ 比率(%)は、原則として小数点以下第 2 位を四捨五入しました。このため、内訳の合計が 100.0 とならない場合があります。
- ・ ポイントとは、百分率(%)を比較した場合の単純差引数値です。

#### 1 財政運営の状況

本年度の財政運営の状況をみると、前年度に比べて歳入は 105.5%増加し、歳出は 84.3%減少しています。

財政収支をみると、本年度の実質収支 6,594 千円から前年度の実質収支 641 千円を差し引いた単年度収支は 5,953 千円の黒字となり、基金の積立取崩しはなく、

実質単年度収支も 5,953 千円の黒字となっています。

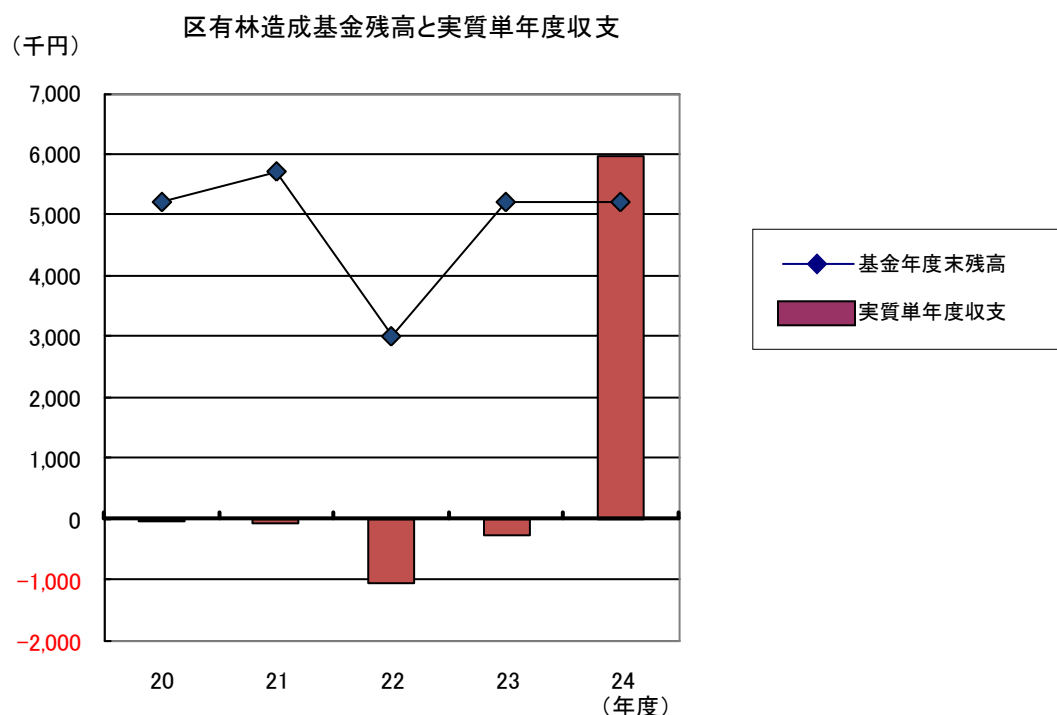
歳入の構成は、主に県行造林分収歩合金 87.1%と繰越金 9.1%となっており、また、歳出の構成は、主に負担金 32.3%、議員報酬 30.9%、一般管理費 28.4%となっています。

区有林造成基金は、年度中の増減がなく、残高が 5,200 千円となっています。

本年度は栃木県が分収林の伐採を行った結果、分収歩合金 6,126 千円の歳入があり、翌年度繰越財源として 6,594 千円の剰余金を生じましたが、所要額を区有林造成基金に積み立てる必要があります。

木材価格の上昇が期待し難い経済環境にあつて、経常的な収入が区有林造成基金利子収入と繰越金となることから、年度を追うごとに財源が縮小する非常に厳しい財政構造となっています。

現実を直視し、徹底した支出削減に努めるとともに、現在の財産区の在り方を抜本的に検討する必要があると思われま



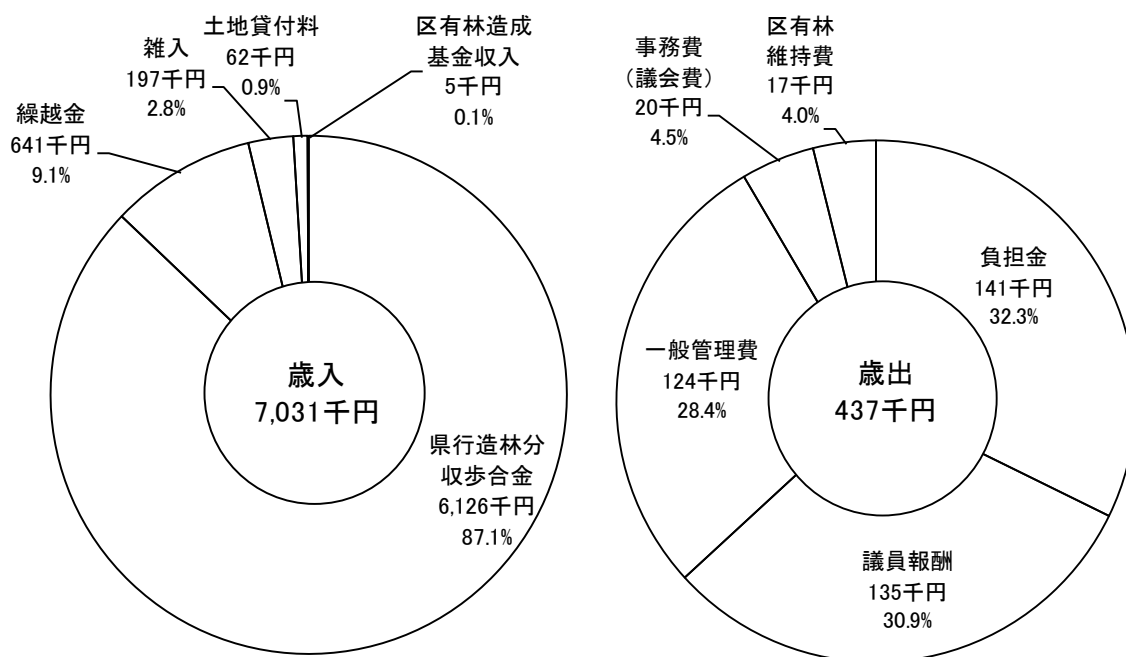
財産区は、地方自治法第 294 条等において、その所有する財産又は公の施設の管理及び処分が主たる目的で、財産の適正な維持管理を行うことにより、住民の福祉の増進に寄与するとともに、地区と市との一体性を損なわないように努めることが求められています。

また、地球環境の保全が求められ、森林が果たしている様々な機能が注目され

ています。郷土の貴重な緑を護るとともに、水源涵養という観点から、将来の展望を踏まえ、これに係る財源の確保と森林の育成に配慮されるよう希望します。

## 2 歳入、歳出

本年度の歳入歳出決算の構成比率は、次のとおりです。



### (1) 歳入

(単位 千円・%・ポイント)

区分 年度	予算現額	調定額	収入済 額	収入未済額	収入率	
					対予算	対調定
24	900	7,031	7,031	0	781.2	100.0
23	3,300	3,422	3,422	0	103.7	100.0
比較増減	△2,400	3,609	3,609	0	677.5	0.0

歳入決算額は7,031千円で、予算現額に比べて6,131千円(681.2%)の増、収入率が781.2%となり、前年度に比べて3,609千円(105.5%)増加しています。

これは、主に、繰越金が2,464千円(79.4%)減少したものの、財産収入の県行造林分収歩合金が6,126千円(皆増)増加したことによるものです。

収入の主なものは、財産収入の県行造林分収歩合金6,126千円(構成比87.1%)と繰越金641千円(9.1%)、雑入197千円(構成比2.8%)です。

調定に対する収入率は100.0%でした。

なお、雑入の財産区共用自動車維持管理経費等負担金については、前年度実績を勘案するなど、引き続き適正な処理が必要と思われます。

## (2) 歳 出

(単位 千円・%・ポイント)

区分 年度	予算現額	支出済額	不用額	執行率
24	900	437	463	48.6
23	3,300	2,780	520	84.2
比較増減	△2,400	△2,343	△57	△35.6

歳出決算額は437千円で、執行率が48.6%となり、前年度に比べて2,343千円(84.3%)減少しています。

これは、主に区有林維持費が4千円(30.8%)増加したものの、積立金が2,200千円(皆減)、一般管理費が136千円(52.3%)減少したことによるものです。

支出の主なものは、負担金141千円(構成比32.3%)、議員報酬135千円(構成比30.9%)、一般管理費124千円(構成比28.4%)です。

なお、不用額は463千円(51.4%)で、主なものは、予備費175千円を除くと、一般管理費の需用費88千円と財産管理費の委託料58千円です。本年度の事務事業は、おおむね予定どおり執行されているものと認められました。

支出の事務処理は、おおむね適正に行われていました。

## 3 財産の管理

土地は1,420,301㎡で本年度中の増減はなく、建物も139㎡で増減がなく、主要な物品についても、異動はありませんでした。

立木の推定蓄積量については、本年度中に所有270㎡、分収113㎡の成長と分収2,689㎡の伐採があり、年度末現在高は所有27,798㎡、分収1,543㎡、計29,341㎡となっています。

区有林造成基金は、本年度中の増減がなく、年度末現在高が5,200千円となっています。

財産の管理については、おおむね適正に行われていました。